



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2019年2月1日  
**2月号・第205号**  
 奈良・人と自然の会  
 会長 鈴木 末一



<植樹（コメリ緑育成財団助成）>



## Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	新春講演会・報告	10
Monthly Repo. ならやま	2	図録表紙デザイン表彰式・報告	11
私のふるさと	3	Galleryならやま	12
里山の今	4・5	仲間入りしました	13
ならやま虫だより・花だより	6	ならやまプロジェクト	14
ならやま投句箱	7	行事案内1	15
初出式・記念植樹・報告	8	行事案内2・奈良学クイズ	16
三輪山登拝・報告	9	幹事会報告・編集後記	17

# 壮春力歩

会長 鈴木 末一

## ならやまの魅力って？

新しい年がスタートし、いよいよならやまプロジェクト活動 18 年目へと歩を進めることとなります。記念誌の編纂や各種会合でのプレゼンテーションのために集積していた資料の整理をいたしましたら、初代会長の川井さん作成のレジюмеが目に留まりました。

標題は「佐紀・奈良阪 里山林プロジェクト」

### 1、目的

古都保存法に基づき、県、風保79号による許諾を受け、県有地の景観形成活動を行う。

佐紀・奈良阪町 64,783 m<sup>2</sup> 地目(山林・畑・田・ため池・堤塘・原野)

### 2、基本理念

- (1) 県の方針、指導を優先遵守し、会の創造性を生かし、景観保全の精神に基づく『自然の調和』を具現することに努める。
- (2) 与えられたフィールドの活用を、参画者の自然に対する『心の発露』として多面的に利用し、相互の親睦と創造の場とする。

### 3、当面する実施細目

- (1) 竹叢の間伐整備、域内の草刈り、周辺道路の清掃
- (2) 雑木林の整備、遊歩道の整備
- (3) 笹藪の整地
- (4) 自然木(柿・梅・桑等)の保全と菜果
- (5) 農事暦に基づく畑作の推進
- (6) 植物の生態調査、野鳥・昆虫類の発見記録
- (7) 花畑の創出
- (8) 作業実態の写真記録

### 4、活動態勢の構築

- (1) 灌漑用水の確保
- (2) 簡易トイレの設置参加
- (3) 防具・作業器具の調達
- (4) 特定地域の看板表示
- (5) 要員の確保

以上

このレジюмеの日付は、H19.8.7 と記されています。プロジェクト活動開始から三カ月経過した段階のことです。半世紀以上の間、「凍結保存の状態」で、足の踏み入れる場所もなく、里山へ入るにも、里地には高さ 3m 以上もの笹藪や蔓性植物がはびこり、どこから手を付ければ良いのか悪戦苦闘の連続で過ぎた期間であったと想像します。

一方、行政との関わりでの各種規制がある中で、許容範囲を見つけつつ前へ進めていくためには、筆舌に尽くしがたいご苦労があったに違いないと思います。ともあれ、あえて『』で括り強調されている二つのことば、『自然の調和』と『心の発露』に、活動の理念を示されています。最初の段階的確な理念を提示され、そのことが今日まで連続として受け継がれてきていると考えています。勿論、将来に向かっても受け継いで行かなければならないと思います。

無から有を生むために、先達の皆様が想像を絶するエネルギーを傾注して夢の種を蒔き、芽生えた幼苗を育て、10 年以上にわたる地道な活動の積み重ねにより、ようやくのこと成木になりつつあります。往時の様子は現在の情景からは、とても想像できないものであります。

蘇りつつある歴史的風土と恵まれた自然環境は、手をこまねいていると、いつの間にかは元の木阿弥に陥ってしまうことになりかねません。やはり、定期的に連続して人の手が入っていることが必要不可欠であります。川井さんが提唱しておられる自然に対する『心の発露』のエリアとして、最大限に活用していこうではありませんか。

ならやまは、お互いに思いの丈をぶつけ合うことができる格好のエリアです。そんなところに相応しいプロジェクト活動の企画を、推進しようではありませんか。お互いにありったけのアイデアを出し合しましょう。



**Monthly Repo. ならやま**

八木 順一

**1月10日(木) 活動 曇り 88名**

平成 31 年。参加者の元気な笑顔がサイトにあふれる。打ち合わせでは初出式や 10 年継続会員記念植樹式の段取りのほか、コメリの緑資金助成が決定したことなどが連絡される。この後、餅つきや七草粥の食材採りの準備がスタート。しかし 11 時半過ぎにはすべての準備が整い、12 時には会が始まる。後片付けには参加者全員が協力し、12 時半過ぎには、サイトは元通り。その後、全員が実りの森に足を運び 10 年継続会員記念植樹式に臨む。今年の対象者は 10 名。終了後は佐保自然の森まで足を延ばし、コメリの花木植樹記念撮影を行った。新入会員 1 名。里山 G はイベントの植樹準備、エコ G はエンドウの支柱たて、そして景観 G は植樹式の準備を行う。またビオ班は池の周辺整備、花班は七草粥の準備、パト



オ班は池の周辺整備、花班は七草粥の準備、パト



樹班は梅林への寒肥入れに取り組む。

G はミーティングの他、竹杭つくりに取り組む。

**1月17日(木) 活動 晴れ 72名+5名**

寒い朝になったが、日中はもう春だ。今日は協働活動日で、部分皆伐地域の下草刈りを行う。手刈りの担当と刈払い機の担当に分かれての作業になったが順調にはかどる。打ち合わせでは明後日開催予定の表紙デザイン表彰式と新春講演会についての連絡が主なものになるが、昼食後



には幹事を対象にさらに細かい打ち合わせが行われる。また、テントの設営も順調に進む。近大から 4 名、シニア生 1 名が来訪。また、終礼前にはぜんざいが振る舞われる。協働での作業の他、里山 G はイベントの植樹準備、エコ G は水田の田おこしや野菜のネット張り、景観 G は実りの森の苗木へのチップ入れや 3 駐車場横の竹の整理を行



う。またビオ班は近大生と共同で池のネット張り、花班は花畑の整備や霜囲い、そしてパト G は 4 コースのパトロールと A 地区のロープ張りを行う。その他、果樹班は梅林への寒肥入れに取り組む。



私のふるさと

心の原点

羽尻 嵩

兵庫県の北東部と京都府との県境にある**但東町**が私の「ふるさと」です。「町」とはとっても、実態はいくつかの村落がまとまった山村です。

私が小学校1年生の時、教員だった父が別の村落の小学校に転勤することになり、家族5人はその教員住宅に移り、生活することになりました。

小学校のある場所は少し開けていて、山に囲まれていたので、景色は夏には緑一色に、冬には白一色になりました。

学校は小規模で、中でも1年生は私を入れて8名でした。5年生の時は教室不足で、6年生と一緒に教室で授業を受けました。

転校後、村にも学校にも直ぐに溶け込み、親友もでき、友達の家にもよく遊びに行きました。



村では季節ごとにいろんな行事がありました。秋には村祭りがあり、晩秋には、子供たちが神を祭る“山神の講”(男子)、“天神講”(女子)という行事もありました。

“山神の講”では、夜明け前に起き、松明をかざして、山の神社に集団で登って祈ります。

夜には肝試しもありました。一人で真暗闇の道をソロソロと歩いて行くと、後ろからヒタヒタと足音がついてくる…。

家の前が校庭だったので、隠れんぼや陣取りごっこをして、暗くなるまで遊んでいました。

冬にはたくさん雪が積り、坂道では竹スキーをし、校庭ではカマクラ作りをしました。

また、親友と裏山にウサギ取りに行き、その帰りに凍てついた雪の上を尻滑りで降りていて、ゴロゴロと転げ落ち、死ぬかと思ったこともありました。

6月には乱舞する蛍を追っかけ、夏休みには川でカッパのように泳ぎ遊びました。

思い出すのは、ほとんど遊んでいる風景です。



その後、私は町の高校に行き、次第に「ふるさと」から離れていきました。

高校卒業後は、1年間東京に出て、大学は大阪で過ごし、縁あって奈良で職に就きました。

さて、立ち返って、あの山村の「ふるさと」は、私の人生にとって何だったのか考えてみました。

昔から、人生をその年齢に応じてふさわしい生き方があると説かれてきました。

子供は風の子で、とにかく遊びなさい(児童期)。少し大きくなれば、学問して知識を磨きなさい(学生期)。成人になれば、社会のために働いて家族を養いなさい(家住期)。年をとってきて仕事を辞めたら、ゆっくりと人生について思いを巡らしなさい(林住期)。そして、人生の最後は、ゆったりと楽しんで生きなさい(遊行期)。

この人生の区分からすれば、私の子供の時期は、自分の努力によるものではなく、不思議な力によるものであるにしても、子供の生き方としてはすばらしい生き方だったといえます。そして、それが私の「心の原点」になってきました。

さて、今はどちらかというとまだ林住期ですが、そろそろ完全に「遊行期」に行きたいと思うこの頃です…。

**里山グループ**

中野 達矢

**里山の今**



**エコファームグループ**

新堀 裕子

◆里山グループで奮闘中

私は平成 29 年 4 月に『奈良・人と自然の会』に入会しました。きっかけはシニア自然大学の教育実習に参加して、大変良くしていただき、数回の実習参加を予定したのですが、希望者が多く最初の 1 回のみで入会を決めました。入会後はどのグループに入るか、考えている時、里山グループの方々の熱心な勧めがあり、里山グループに入ることにしました。

まず見習いから始めました。先輩の方々に鋸、鉋などの使い方や運搬車、チェーンソーなどの使用方法、それに立木の倒し方などの指導を受けました。立木の倒し方では先輩方の伐採を離れた所で見てみると、自分の所には倒れてこないと思っても、見ているうちに倒れてくるような錯覚に陥り、少しずつ、後ずさりしている時もあり、怖さがありました。先輩方から木を倒す時は周囲の木の整備と隣接木との枝が絡んでおり、正確、安全に倒すためには、木の倒れる方向に受け口、反対側の追い口の面を正確に平行に切っていくことと、特に「つる」といわれる部分をきっちり取ることや、倒れる時は自分の逃げ場所を事前に決めておくなど安全面の心構えなど学びました。

作業終了後の道具や工具の手入れの仕方と整備、安全面の知識、ロープワーク等、まだ覚える事がたくさんあり、毎日が勉強です。これからも先輩方の指導を糧に、さらに研さんを重ね、微力ながら、ならやまの整備、保全に少しでも貢献できるよう、頑張っていきたいと思っています。活動日の作業は楽しく、また帰りは仲間と居酒屋での一杯は格別で、心地良いひと時を過ごしています。

まだまだ不慣れな点多々ありますので、皆さま方のご指導をよろしくお願いします。



◆食品の保存について

食べ物を無駄なく、美味しく保存する方法について調べました。

〈大根の葉〉

余ったら塩ゆでし、ざく切りにして冷凍可。

〈クレソン・カイワレ菜〉

どちらもなるべく早くパックから出す。

クレソンは、水を入れたコップに移す。

カイワレ菜は、スポンジを湿らせておく。

〈ネギ〉

新聞紙で包み、涼しい場所に立てておく。

〈里芋〉

タワシできれいに洗って土を落としてから乾燥させる。

〈タマネギ〉

ビニール袋から出し、風通しの良い日陰におく。

〈キュウリ〉

夏以外は常温で。冷蔵庫では比較的温



度の高いドアポケットに立てておく。

〈葉物野菜〉

袋に入れ冷蔵庫へ。野菜室の手前に立てておく。(スーパーの野菜袋は長持ち機能あり)

〈ジャガイモ〉

洗って土を落としてから乾燥させる。

春から夏にかけては冷蔵庫に入れる。

〈香味野菜〉(ニンニク、大葉、ショウガなど)

袋から出し、密閉容器に入れ替える。

〈キノコ〉

ほぐしてそのまま冷凍しても可。

〈乾物〉(昆布、煮干し、青のり、七味唐辛子など)

一度封を開けたものは、密閉し冷凍がおススメ。

『ラクうまごはんのコツ』新星出版社より

景観グループ

西谷 範子

◆ハハコグサの減少

春の七草のひとつでゴギョウともいう。全体に綿毛が生えていて、冠毛がほうけ立つことからホオコグサと呼ばれ、これが転化した。昔は餅につき込んだが、のちにヨモギになった。

全体が綿毛に覆われているため、白っぽく見えるが、黄色の小さな頭花をかたまっつけてる。ならやまには、たくさんあり、春には黄色の花の行列が見られたが、今では七草粥にも事欠くようになった。

この仲間でチチコグサの頭花はかたまっけて咲くが茶色で、ならやまにも少しあった。

また南アメリカ原産のタチチコグサやチチコグサモドキという繁殖力の強い帰化植物が戦後急に広がった。ならやまにも増え始めた。これらは丈も長く 15~35cm に伸びて、葉腋からつぎつぎと枝を出し、各々の先に褐色の頭花をかたまっつけてる。

ところが、ならやまの人口が増えるにつれ、帰



化植物はどんどん持ち込まれ始めた。上記のものより、もっと繁殖力の強いウラジロチチコグサである。茎は根元から横に多く分岐してそうせい叢生し、80cm ほどになる。名前のおおりの大きな葉の裏は白毛に覆われている。花

は褐色で花期が長い。もうハハコグサもチチコグサも追いやられ（東の方に少しあるが）フィールド全体がウラジロチチコグサに占領されてしまった。皆さん、朝会の時、長椅子の下を見てください、ウラジロチチコグサがいっぱいです。



パトロールグループ

山本 隆造

◆冬芽がオモシロイ

去年は相次ぐ台風の襲来で、各地に大きな影響を及ぼしました。特に9月の21号台風は、ここのならやまでも大きな被害をもたらしました。

自然観察路では、いたる所でナラ枯れを免れ生き残ったコナラの大木やソヨゴが、途中で折れたり根こそぎ倒れたりして、通行不能となりました。ナラ枯れで多くのコナラが枯死したことで、生き残った木に風が集中したものと思われます。復旧に時間はかかりましたが、やっと冬の明るい観察路を気持ちよく歩けるようになりました。

この時期、美しい冬芽を付けてくれる、ザイフリボクが、第3駐車場先のサイクリングロード沿いにありましたが、見当たりません。ナラ枯れや台風で倒れたクヌギの巻き添えを食ったのでしょうか。一昨年、桜を植樹した、北側皆伐地区、上部斜面のザイフリボクは健在です。赤みを帯びた、光沢のある枝先に少し綿毛をのぞかせた冬芽が美しい。

冬芽が鷹の爪を連想させるとして名付けられた、タカノツメ。伸びなくても日照を得られる枝は、毎年ほとんど伸びず、葉だけを交換するため葉痕（葉が落ちた跡）が重なる。枝を伸ばさない省エネ戦略だとか。



大きな葉痕がヒツジやサル顔に見えることで、人気のオニグルミ。ならやまではベースキャンプ奥、テントの上に枝を広げています。観察するには少し高い所ではありますが。

ルーペ片手に冬の自然観察路を散策してみたいかがでしょうか。

**ならやま虫だより**

菊川 年明

◆ヤママユとクスサンの繭

真冬の雑木林で小枝の先にヤママユやクスサンの抜け殻の繭がぶら下がっているのをよく目にする。ヤママユもクスサンもヤママユガ科に属する大きなガである。翅（ハネ）を全開して止まる習性があり、翅全開の大きさは手の平ほどもある。

もう昔になるが、ゴジラに続いてモスラという怪獣？映画が作られた。その主人公の巨大なガ(モスラ)の姿は、翅の模様こそ奇抜であるが、形はヤママユガ科のガを模したようであった。

\*ヤママユ

ヤママユの繭は薄緑色で、カイコの繭に似た俵型、大きさはカイコの繭よりかなり大きい。ヤママユは天蚕（テンサン）とも呼ばれ、高級な絹糸の原料になり、飼育も行われている。ただし、カイコのような飼い方はできず、クヌギなどの木に幼虫を放ち、ネットをかぶせて飼育するそうで、たいへん手間のかかることのようにある。



\*クスサン

クスサンの繭はヤママユのものより長めで、頑丈な網状になっている。この姿から「透かし俵（スカシダワラ）」という呼び名がある。昔、魚釣り糸のテグスは台湾産のテグスサンというガの老熟幼虫の絹糸腺から取り出したそうであるが、その代用品としてクスサンの幼虫からもテグスを取ったそうである。



**ならやま花だより**

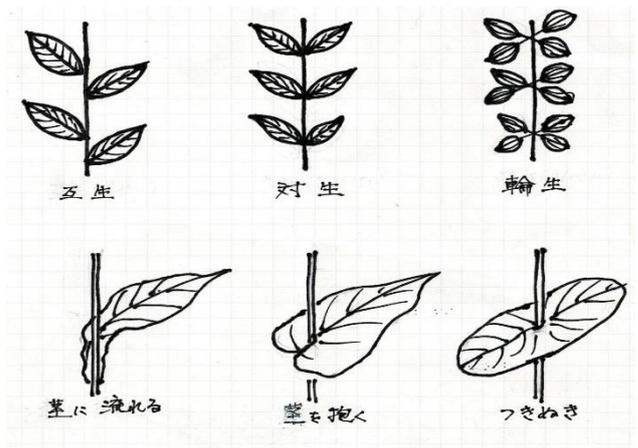
桜木 晴代

◆知ると身近に！

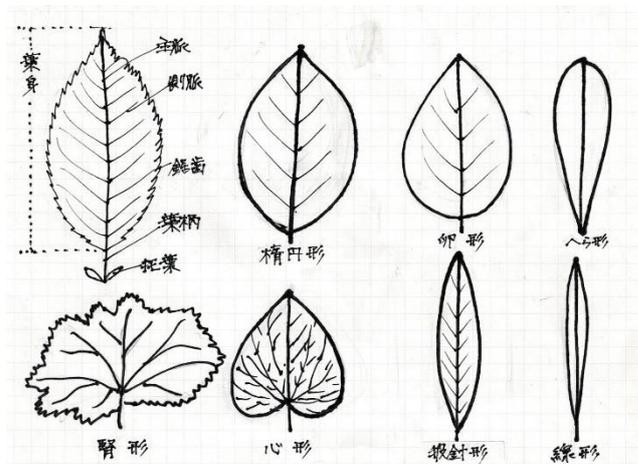
植物観察会の参加者から「植物の説明を聞いても始めは外国語を聞いているようだった。＜対生や互生＞＜鋸歯や複葉＞???何回か参加して、ようやく少しわかるようになってきた」との言葉がありました。

かねてより植物の基本的な知識は身の回りの草や木に興味や関心を持つことにつながるのではと考えていたので、この機会にと思い、今回と次回に記すことにしました。

\*葉のつき方



\*葉のつくり と 葉の形



活動の合間に、ならやまの里地や里山林の草や木を観察してみてください。きっと草木への思いがさらに深まることでしょう。

# ならやまトーク・投句

## 新春

去年今年闊志抱きて里山人

鈴木末一

(奈良・人と自然の会は十八年目、百七十二人の個性豊かな集団。やるつきやないと、コンダクターは肚を据える。会長新春の決意)

里山も笑顔あふれる初出かな

八木順一

(昨年来久しぶりに里山で顔を合わす。ニコニコ顔が懐かしい)

ならやまの白猪なるぞと初笑い

古川祐司

(七度目年男、猪突厳禁・安全第一・無理にも笑顔と自戒する)

めでたさに朱果を啄む松飾り

坂東久平

(松飾りの赤い実が小鳥に食べられてしまった。鳥さんもおめでとう)

七草粥大釜の底後ふまで

古川祐司

(初出は大賑わい。七草粥の大釜も瞬く間になくなる。腹に心地いい。)

アラエイト 目出たくもあり庵の春

坂東久平

(遂に、八十歳の大台に。喜ぶべきかな?・・・。歓迎! 傘寿の会)

あらたまのかおかおかのすがすがし

桜本晴代

(ならやまの初出 朝の光に、どの顔もどの顔も、皆すがすがしい)

### 歳末あれこれ

敷松葉さざ波のごと古刹庭

鈴木末一

(古刹の庭、苔には霜よけのためか松葉が一面に。心鎮まる空間)

一年を土と戯れ古日記

岡田安弘

(年末に日記を読み返し、書いた日は木曜日がほとんどと気が付く)

さいしよはグウ野菜ひと束冬うらら

岡田安弘

(十二月と言うのに春を思わせる日、じゃんけんで収穫品を分け合う)

ねこ餅の届きて忙しあと二日

西谷艶子

(前の日にねこ餅が配達された。今日中には切っておかないと固くなって切れない、と心がせく。歳末の主婦は忙しい)

行く年や名画に涙「シェーンカムバック!」

西谷艶子

(暮れには昔懐かしい名画が放送される。面白くて感動するところは若い頃と同じ。あの最後のシーン、少年の名セリフにまたもじんとくる)

\*\*\*\*\*

皆様の投句を

お待ちしております

宛先は、古川祐司まで

(Fax 0742-44-8621)

(CYQ03421@nifty.com)

## 平成31年 新春初出式

八木 順一

平成31年を迎え、ならやまでも新春の活動が始まる。温度も零度を下回るか、と想像される特に寒い朝になったが、90名を超す沢山の会員が顔をそろえる。今日のメインの活動は新春初出式と10年継続会員の記念植樹式だ。特に初出式では朝早くから餅つきや七草粥の食材採りなどの準備が着々と進み、10時30分過ぎには一つ目のもち米も蒸しあがり、いよいよ餅つきのスタート。今年は黒米入りの餅も含めて4臼の餅つきが予定される。「昔とった杵づか」通りに事ははかどらず、交代で杵を振り上げる参加者の腰もふらついて定まらず、寄る年波がここでも露呈する。



しかし、それでも11時45分過ぎには餅の他七草粥等のすべての料理が準備完了。会長のあいさつ、ささやかなおとその乾杯の後、早速会食の時間が始まる。きな粉餅やおろし餅、はたまた黒米のお餅等が瞬く間にはけ、40分後には食卓の上は何もない状態になる。

「お腹を十分満たした上に、会員相互の親睦をさらに深めた」新春初出式、参加者、特に今回初めて参加したメンバーには十分満足したものになったのだろうか。楽しそうに料理を頬張り、他のメンバーと会話を交わしている表情からは「そうだ、そうだ」といった答えしか返ってこないような気がする。

この後、参加者全員で後片付けに入り、サイトも瞬く間に元の状態に戻る。こういった行事、来年もまた再来年もぜひあり続けてほしいものだと痛感する。

## 10年継続会員 記念植樹式

八木 順一

井戸八穂子さん、菊川年明さん、岸谷順裕さん、岸谷和代さん、木村慎司郎さん、塩本勝也さん、鈴木末一さん、谷川雅邦さん、森英雄さん、安川和男さん、これらの方が今年10年継続会員の表彰を受けられた方です。例年は感謝状授与をもってその功績を顕彰させていただいていたものが、こういった植樹式での顕彰、という形になって2年目を迎えることとなりました。

今年は、新春初出式の終了後に植樹式を行ったため、大変忙しい日程になりましたが、参加者がほぼ全員、徒歩や車で実りの森まで足を運び、記念植樹式に参列、という形になりました。

開会のあいさつの後、羽尻副会長からお祝いの言葉があり、今年は「富有柿」が1本植樹される旨、報告がありました。その後、継続会員を代表して鈴木さんにこの富有柿が贈呈され、早速植樹開始。今年は対象者が多かったことに加えて、他の参加者も作業に協力、瞬く間に植樹は終わりました。さらに小島さんが準備された銘板も取り付けられました。



そして、最後にこれも継続会員を代表して、鈴木さんから感謝のお言葉が述べられる。「桃栗三年柿八年」といった諺を出すまでもなく、今日ここに植えられた柿が大きく育ち、会員の舌を甘く楽しませ、さらには胃袋を十分満たすまで、元気にここで活躍して欲しいものだ、と心より願いました。10年継続会員の皆さん、本日はおめでとうございます。

1月歴史文化クラブ報告

大神神社初詣と三輪山登拝

中井 弘・青木 幸子

1月15日(火)、歴文クラブ主催による「奈良・人と自然の会」の大神神社初詣と三輪山登拝を行った。毎年の恒例行事となり、今年で4回目である。今回は34名と過去最多の参加者である。天気は幸いにも高曇りだが崩れることはなかった。

二の鳥居前で古川代表によるごあいさつの後、掃き清められた参道を登る。大神神社の境内は厳かな雰囲気があるが、例年に比べ参拝者が多い。それもそのはず、この日は小正月の火祭り行事「どんど焼き」の日であった。

登山口の狭井神社は大神神社の摂社で、ここで登拝組30名と散策組4名に分かれる。社務所で借りた白禊を掛け「自祓い」して登拝開始。



山中には杉や檜の大木がうっそうと茂り森厳な雰囲気だが、度重なる台風で倒れた巨木が目につく。

幹に硬くて鋭いとげがあるカラスザンショウの大木の群生を見ながら登り続ける。

中腹の中津磐座(大己貴命)で2名が引き返した。さらに急坂を登ると、山頂の奥津磐座に着いた。この磐座は大物主神の依代である。天から神が降臨するところとされ、古代祭祀の遺跡であり一種畏敬の念を感じる。所要時間1時間10分。

古事記・日本書紀の記述では、天孫降臨以前、大物主神(大神神社のご祭神)が、国造りに悩んでいた大国主神の前に現れ、国造りを成就させるために、自らを三輪山に祀ることを望んだとある。

下山途中裸足で登ってくる東京からの女性に出

会う。ご神体の山に靴履は恐れ多く、またパワースポットとされる三輪山のパワーを感じるためとか。休憩もせず50分で狭井神社に降り立った。

一方散策組4名は大神神社周辺を散策する。

まず大和三山を望む素晴らしい景色の展望台へ。なんと三山を包み込むように長い朝霧<sup>あさもや</sup>の帯が漂っており、幻想的な景色にしばしうっとり。

続いて知恵の神様・久延毘古命を祀る久延彦神社へ、入試合格の願掛絵馬がびっしり掛けられている。孫の受験用にお守りを買う2人。そこから少し歩いて平等寺へ。

本尊は十一面観音である。ご住職から貴重なお話を伺った。平等寺はかつては大神神社の奥の院・神宮寺で、12の大伽藍を有した由緒ある名刹であったが、明治の神仏分離令で破壊され廃寺になったと



いう。飛鳥様式の本堂は、托鉢(講演など)した浄財でご住職自から設計して再建されたとか。まだまだ壮大な計画をお持ちのご住職。お名前は「丸子孝法」さま。ご先祖は天理市の和爾遺跡群辺りを支配地域とする豪族・和爾氏の系譜とか。現代版行基さんのような方にお会いでき幸せな気持ちになった。

総合案内所前で総勢34名全員が合流。徳川家光が再建したとされる、重文「拝殿」へ登る。身が引き締まるような肅然とした感じに打たれる。神職の祝詞が厳かに奏上されたあと、古川さんが当会を代表して玉串拝礼を行う。会の繁栄、会員の安全、活動日の好天をお祈りした。

次に巫女さんによる鈴払いがあり、鈴の妙なる音色は静かに心の奥底まで染み入り、誠に心身が清らかになる。お神酒を頂いた後、拝殿奥の神聖な三ツ鳥居(三輪鳥居ともよばれる)を通しご神体・三輪山を参拝した。

例年の如く「福神堂」で「三輪そうめん」を肴に銘酒「三諸杉」をいただき、心身ともに良い気分三輪を後にした。

# 新春講演会 報告

小島 武雄

平成30年1月19日(土)1月とは思えない暖かさと日差しの日、奈良市中部公民館4階にて、午前10時より11時40分まで行われました。出席者は60名以上(会員、表彰式出席の子供たちとご家族他)。

講演会に先立ち、「見つけよう自然のなかま」ならやまの昆虫と植物たち図録集の表紙デザイン作品入賞表彰式が行われ



ました。5名の子供たちに表彰状と記念品が贈られ、子供たちに感謝と激励拍手が送られ、会場は和やかな空気に包まれました。

本講演会の講師には、会員の皆さまより是非との要望により、甲南大学特別客員教授の田中修先生をお迎えしました。専門は植物生理学。主な著書「植物のかしこい生き方」「植物はすごい」「植物のひみつ」など。主な出演番組は、NHKラジオ「夏休み子ども科学電話相談」朝日放送ラジオ「おはようパーソナリティ道上洋三です」NHKテレビ「アインシュタインの眼」日本テレビ「世界一受けたい授業」など多数。

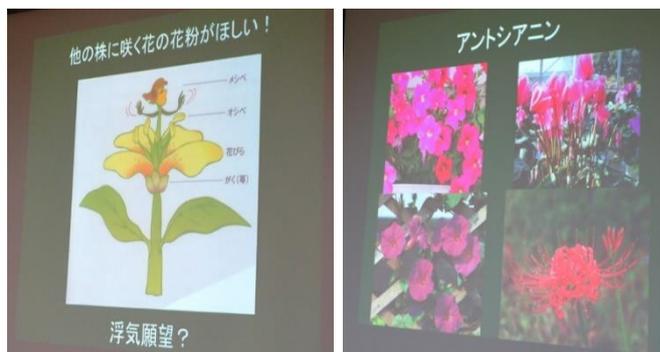
鈴木会長より、田中先生の「植物の主体に立っ

た論点」科学でもまだ解明できない植物の葉の素晴らしさについてのお話が聞けるとあいさつがあり、



講演は始まりました。演題は「植物たちの生き方に学ぶ」です。

冒頭にラジオ放送された録音で、暗黒の中で光を探して成長するモヤシのたくましさについて。そして田中先生のやさしい語り口で、なぜ植物は何も食べずに成長できるのか？昔、人は口から食べ物を取るように、植物は根から食べていると、信じられてきた。今は光合成の力と解っているが、それでも今の科学でも、この葉っぱ一枚の作りだす力に及ばないこと。植物は食べ物を探し動き回る必要がない！動物が動き回る理由は子孫を残す相手を求めて！花壇の花は無駄な横並びの競争を避ける！花粉は浮気願望でも保険をかける慎重さ！マツ、モミは寒さの中で緑に輝くために蓄える！厳しい試練に耐えてこそ、「ひと花咲かせる」ためには？アントシアニンで紫外線から体を守る！植物たちは準備を怠りなく生きている。花はやさしい言葉で育てられたら、大きく育つの？



なぜ、不思議など身近な事柄や素朴な疑問を、平易で解りやすくお話いただき、講演時間の1時間半はあっという間に、もっとお話を聞きたい気持ちいっぱいのところ、予定時間が来てしまいました。質問時間の後、羽尻副会長より閉会のあいさつにて講演会は終了。

その後、田中先生を交えて、会場を近くの花小路に変えて懇親会を行いました。会場準備等、皆さまのご協力、幹事の方々、ありがとうございました。

**図録「見つけよう自然のなかま」  
—ならやまの昆虫と植物たち—  
表紙デザイン募集に 97 作品**

鈴木 末一

ならやまプロジェクトに伴い、当会が収集した植物や昆虫に関するデータを子供向け図録に残そうとの編集活動が続けられていますが、その表紙のデザインは小学生を対象に公募されました。優秀作品がこのほど選ばれ、1月19日、奈良市中部公民館で、恒例の新春講演会に先立って表彰式が行われました。

昔の「ならやま」は、のどかな環境に多くの動植物が生息していました。その恵みを四季折々に授かりながら、私たちは生活していたのです。しかし、半世紀以上にわたる「凍結保存」により、荒涼、殺伐とした情景に変わり果てていました。

当会は2007年4月から奈良県との協定により、「ならやま里山林景観形成整備ボランティア活動」に取り組み始めました。苦節12年。その間に集積してきた昆虫や植物のデータが、膨大なものになってきました。昆虫で600種、植物で200種以上にも達します。そのような貴重な知的財産を、埋もれたままにしておくには忍びないとの思いを強くしていました。

昨年5月から6月にかけて、各種助成金についての情報を収集していたところ、トヨタ自動車株式会社が、環境活動助成プログラムの中で、「国内小規模プロジェクト」を募集していました。基本理念として、21世紀が真に豊かな社会として持続的に発展していくためには、環境と人間の活動との調和が不可欠であり、次の世代に対して豊かな地球を引き継ぐ責任があることを認識し、人類共通の課題である環境問題の解決にあたっていかなければならない、と提唱していました。このことを受け止めて、「全ては次世代の子どもたちのために」というモットーで、類い稀であろう知的財産を図録として編纂し、自然環境教育での生きた教材として活用したいと、助成を申請しました。

7月31日、待ち焦がれていた第一次選考を通過。10月末に本選考の結果発表という段取りとなりました。

一次選考通過の吉報を受けてから10月末までの間、手をこまぬいて待ち続けるよりも、図録編集準備委員会を立ち上げることに踏み切りました。

11名の委員を委嘱し、経験と知識を活かし、コンセプト、編集要領、ページ立てなどについて協議を重ねた結果、昆虫編は菊川年明さん、植物編は木村裕さんと西谷範子さんが中心となってデータの作成を担当することになりました。

次に、表紙に子どもの夢を乗せようと、デザインを公募することになり、会員のお孫さんと奈良市立佐保台小学校の児童に呼びかけました。

10月末、トヨタ環境財団から本選考の結果、助成が決定した旨のビッグな知らせがあり、一層委員会が活気づきました。

11月末までに97点の作品の応募がありました。自然と人間との関わりを感じさせる力作揃いです。編集委員会で一次選考をして20数点を選び、奈良市教育協議会図画工作部会の先生方に本選考をお願いしました。その結果は次の通りです。



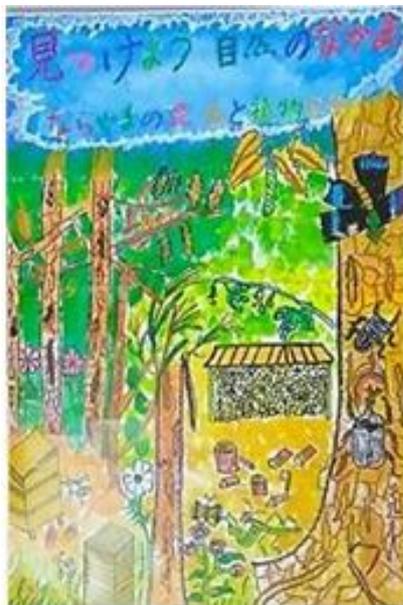
最優秀賞：中川 美登里 さん

優 秀 賞：畑 山 時 也 君

優 秀 賞：長谷川 葵 さん

佳 作：中 野 泰 志 君

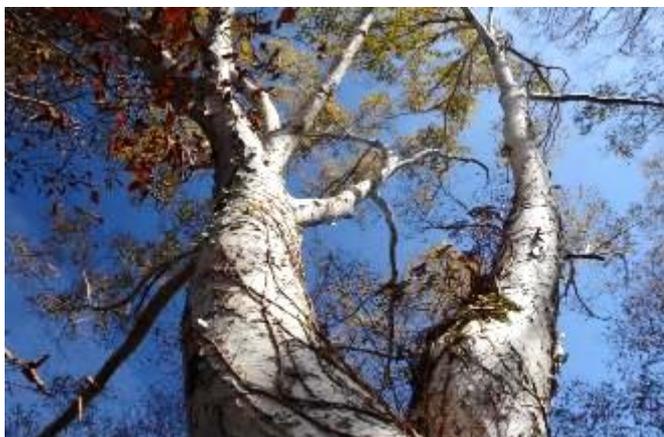
佳 作：田 中 涼 太 君



▲中川さんの最優秀賞作品

最優秀賞を受賞し、作品が表紙を飾ることになった中川美登里さんは、表彰式で「自然が好きなので、一生懸命描きました」と、やや頬を紅潮させながら、受賞の喜びを話してくれました。

# Gallery ならやま



▲写真「岳樺(ダケカンバ)」 中井 弘



▲写真「冬景色」 植野 益行



▲編みぐるみ「うりぼう」 山本 妙子



▲草木染「ラベンダー染(シルクストール、サテンシャツ)」 小島 武雄



◀クラフト「干支・亥年」 田中 克彦

皆さまからのご応募お待ちしております。  
絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品・パッチワーク・切り絵・自然工作など。



**仲間入りしました**

衣笠 博美

「奈良・人と自然の会」に入会させていただいて、まだ4ヵ月ですが、ならやまに来るたびに、子供の頃かけまわっていた北海道の田舎を懐かしく思い出し癒されています。



以前から土いじりが好きで、数年、貸農園で孤独に野菜づくりをしていましたので、ならやまで皆さんと一緒にワイワイ作業ができることを大変うれしく思っています。

新蕎麦まつりや芋煮会など、四季折々に合わせた行事も大変興味深く、老後の楽しみのひとつになりました。

初体験の事も多いので、いろいろ教えていただきながら挑戦していきたいと思えます。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

\*\*\*\*\*

中嶋 さよ子

一昨年借りていた畑を返して、少し寂しさを感じていました。そんな時お友だちよりこの会のことを教えてもらいました。早速見学かたがたの会合に参加し、豊かな自然の森の中で有機肥料を使い、野菜、お花などを育てている事を知りました。

仲間の皆さんの暖かい雰囲気もあり、これからの時間を土に触れながら、自分の時間を豊かにするためにも入会して頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



中林 治子

友人の紹介で2回ゲスト参加しました。「奈良・人と自然の会」ゆっくり時間が流れ、さまざまな人により造られた里山、農園その他・・・。

昔のスペイン、ガリシアと同じ空気を思い出しました。

自宅からは時間がかかりますが、いろんな人もかかわり何かお手伝いできればと思い、今後ともよろしくお願い致します。



\*\*\*\*\*

山田 友光

このたび、会員の方にお誘いいただき入会させていただきました。見学の日、会員各位の自分のためだけでなく、奉仕の精神で活動されているのを目のあたりにして感銘しました。

これまでボランティア活動に参加したことがなく、皆さまの期待に応えられるか不安ですが、私なりに務めたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
活動予定日

2月	7 (木) 14 (木) 21 (木) 28 (木)
3月	7 (木) 14 (木) 21 (木) 28 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

## ◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
  - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統  
8：28 発、高の原行き（平日）
  - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統  
8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩 7 分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



- ◆連絡先：八木 順一

## 里山

### 2/7 協働活動・アダプトプログラム

植樹用コナラの根切り／楯木作り  
植樹地の附近整地・穴掘り／薪割り

### 1 4 イベントの準備（遊びの広場）

植樹地の附近整地・穴掘り／薪割り

### 2 1 植樹地の附近整地・穴掘り

イベントの準備／薪割り

### 2 8 シイタケ菌打ち

里山林内整理／薪割り

## エコファーム

### 2/7 協働活動・アダプトプログラム

冬野菜収穫、水田整備／タマネギ等追肥、  
里芋・白菜・大根跡地整備

### 1 4

冬野菜収穫、水田整備／そら豆支柱立て  
里芋・白菜・大根跡地整備

### 2 1

育苗ハウス補修整備  
冬野菜収穫、水田整備

### 2 8

育苗ハウス補修整備  
冬野菜収穫、水田整備  
馬鈴薯畑整備



## 景観

### 2/7 協働活動・アダプトプログラム

整備：竹林整備（林野庁）

ビオ池：西池泥掻き出し

花：アガバンサス、ポピーの草取りと霜囲い

### 1 4

整備：竹林整備（林野庁）

ビオ池：東池水抜き、タナゴ池整備

花：月見草園とアジサイの整備・柵作り

### 2 1 整備：竹林整備（林野庁）完了

ビオ池：タナゴ池整備

花：山野草園の草取り、整備

### 2 8 整備：BC 周辺整備

ビオ池：タナゴ池整備

花：黄菖蒲園整備、柵作り

## パトロール

### 2/7 協働活動・アダプトプログラム

2 コースパトロール／ミーティング  
丸太階段、手摺補修

### 1 4 3 コースパトロール／丸太階段、手摺補修

### 2 1 4 コースパトロール／丸太階段、手摺補修 イベント準備

### 2 8 1 コースパトロール／丸太階段、手摺補修



# 行事案内 Part 1

## 2月月例研修会のご案内

### 安堵町の太子道から廣瀬神社（砂かけ祭り）へ

安堵町は、町西側には富雄川、南側には大和川が流れる広々とした田園地帯です。古くは聖徳太子が膳かしわでのきさき妃と生活をともにした地であり、飛鳥まで通われた太子道もあり、各地に聖徳太子にまつわるさまざまな伝承が残されています。

近代では大阪府の一部に吸収されていた奈良県を不撓不屈の運動で独立させた、今村勤三や、陶芸家の富本憲吉など数多くの有名人を輩出しています。富本憲吉の自宅を改装した「うぶすなの郷 TOMIMOTO」で昼食をいただき、廣瀬神社まで歩きます。日本書紀にもみられる古い儀式の「砂かけ祭り」を見学します。



#### <実施要領>

月 日：2月11日（祝）雨天実施

集 合：JR法隆寺駅改札口前 9時30分

\*JR天王寺駅16番ホーム大和路快速加茂行き

9:00 発—JR 法隆寺駅着 9:22

\*JR 奈良駅 大和路快速天王寺行き

9:15 発—JR 法隆寺駅着 9:26

参加費：3,500円（昼食代&資料館入館料）

担 当：富井 忠雄

#### <行程>

JR法隆寺駅9:30—天理軽便鉄道跡—成福寺跡—上宮遺跡公園—善照寺—広峰神社—太子道—飽波神社—歴史民俗資料館—うぶすなの郷 TOMIMOTO（昼食）—高塚—廣瀬神社—JR 法隆寺駅 解散 15:30頃 行程約8km

★聖徳太子ゆかりの道をたどり、おいしい昼食をいただき、天下の奇祭を見学しましょう！

★田んぼや樹木、水辺で多くの冬鳥も観察できるでしょう！寒い時期ですので防寒対策を。

（青木 幸子）

## 自然教室チームだより 3月行事案内

### 早春の高円山山麓コース・自然観察会

平成31年3月4日（月）、場所を当初予定の「ならやま」から「高円山山麓周辺」にかえ、今年初めての自然観察会を下記要領にて実施いたします。

案内役は昨年10月の「生駒山滝寺周辺」観察会で参加者の皆さまから大好評を得ました「大阪自然史博物館友の会」副会長の田代貢さんに再度おねがいたします。

前回に引き続き、草や木の植物観察はもちろんのこと、エノキの落ち葉につくゴマダラチョウの幼虫など越冬昆虫やヤモリの生態などにも目を向け、目からウロコのお話をたくさんご用意いただいております。

植物の名前を覚えるだけの観察会ではなく、時にかれんに、時にたくましく、けなげに生きる植物の姿に感動を覚えるような観察会を目指しています。

皆さまも、ぜひ、ご参加ください。

#### 1. 日 時：3月4日（月）

午前10時～午後3時（予定）

#### 2. 集 合：近鉄奈良駅、行基菩薩像前

#### 3. 持ち物：弁当、お飲み物、（あれば）ルーペ、図鑑

#### 4. 観察ルート：

近鉄奈良駅→猿沢池南部→（奈良町を通過）→奈良ホテル→天神社→頭塔裏→（破石町バス停経由）→東山緑地（昼食）→白毫寺→高円山登山口（入山はせず）→春日大社→近鉄奈良駅

#### 5. 担 当：自然教室チーム 桜木／山本(美)／辻本



【東山緑地】

（辻本信一）



# 行事案内 Part2

## 公開イベント

### 「シイタケ菌打ちイベント」実施のご案内

春の訪れが待ち遠しいこの時期、恒例となりました「シイタケ菌打ちイベント」を、地元佐保台小学校放課後子供教室の児童生徒をはじめ、公開イベントとして広く県下の子供たちの参加を募り、次世代の子供たちに対する自然環境教育の一環として、「ならやま里山林」内にて下記要領にて実施いたします。

### 記

- 日時:平成 31 年 2 月 23 日(土)10:00~15:00  
\*雨天の場合 2 月 24 日(日)に延期いたします。
- 場所:ならやまベースキャンプおよび里山林
- 内容:午前:シイタケ作り (こま菌植え込み)  
コナラの植樹  
昼食:ならやま名物の豚汁提供  
午後:ならやま里山林内での「山遊び」
- 参加者:小学生児童とご家族合計 60 名
- 参加費:500 円 (児童・保護者各 1 人当たり)
- 持物:軍手・お弁当・飲物・汁椀・箸・雨具他
- 受付窓口: 辻本



【シイタケ菌打ち】 【昨年はクヌギを植樹】

シイタケの菌打ち作業やコナラの植樹を通じ、参加された子供たちとその家族の皆さまには、自然の豊かさ、自然の大切さを学んでいただきます。

冬の寒さに負けず頑張る子供たちをみんなで応援しましょう。スタッフとして、40名の会員の皆さまのご参加をお願いいたします。皆さま、奮ってご参加ください。

(辻本 信一)

## 3月ならやま活動&行事予告

### \* ならやま活動 (木)

3月 7日 協働活動日

3月 21日 新入会員歓迎会



### \* 自然教室

3月 4日 (月) 自然観察会

講師: 田代 貢先生

### \* 歴文研修会

3月 20日 (水) 万葉ロマン

山辺の道 中北部の歌碑巡り

\*イベント 3月 30日 佐保川桜祭り 雨天→31日



\*\*\*\*\*

## 奈良学クイズ

この航空写真(昭和 37 年撮影)には、由緒ある歴史上の名所が 3カ所あります。3カ所の名称は？



◆締切: 2月5日 (必着)

◆応募方法: メール

◆正解された方には ???プレゼント

【12月号の正解】 石上宅嗣、続日本紀

